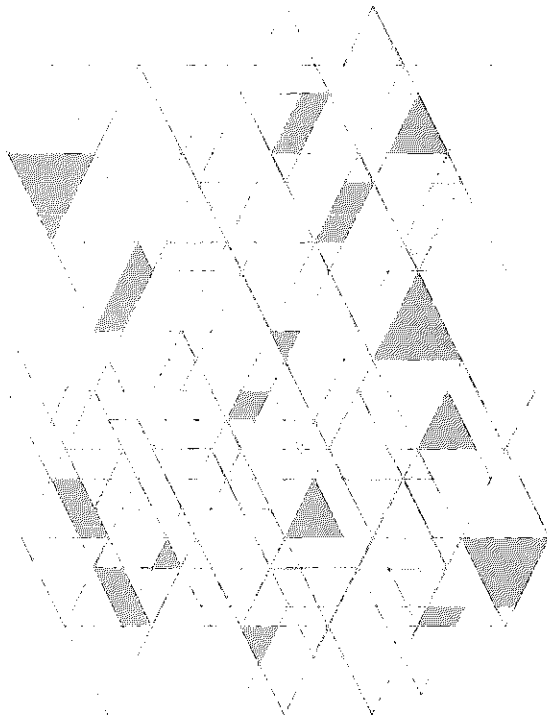


農村計画委員会春季学術研究会

「住み続けられる農村の計画、被災地で何が可能か？」

日時：2014年7月19日（土）13時00分～17時00分

会場：東北工業大学一番町ロービー 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-3-1（ニッセイ仙台ビル）



東日本大震災から3年が経過し、被災地では移転先の造成工事が進み、一部の地域で災害公営住宅の入居や集団移転事業の宅地貸し出しが開始されている。移転によって、地域コミュニティの継承が難しくなっている現状を受け止めながらも、かつての住み慣れた環境・共有空間や伝統的な生活文化を再評価し、豊かなコミュニティの創造を目指して、被災者らによる模索が各地で行われている。

被災地の多くは、農村地域である。沿岸部の風土や文化の違いによって、多様な地域が生まれ、それが魅力として価値を高めてきた。これからの縮退する社会にあって、人々が住み続けられる農村のあるべき姿を、我々はどう構築していけるのか。本シンポジウムでは、持続的な農村の復興の姿やそこに導く計画的手法について、現場で活躍する方々とともに考えていきたい。

■あいさつ 岡田知子（日本建築学会農村計画委員会委員長、西日本工業大学）

■発表・討論 仙台平野部における集団移転事業、災害公営住宅整備の現状（鈴木孝男、宮城大学）

コモンズを介した災害公営住宅の展開～岩沼市玉浦地区の事例から～（手島浩之氏、日本建築家協会東北支部）
 居久根集落の現地復興まちづくり～仙台市南蒲生の取り組みから～（榊原進氏、（特活）都市デザインワークス）
 環境配慮型住宅「紫波型エコハウス」の展開（竹内昌義氏、東北芸術工科大学）
 参加と成熟～公営住宅における住み手主体の設計意思決定と住宅地運営～（重村力氏、神奈川大学）

■まとめ 三橋伸夫（宇都宮大学）

□参加費 会員：1000円 会員外：1500円 学生：500円

□申し込み先と方法 宮城大学事業構想学部 鈴木孝男
 E-mail: suzutaka@myu.ac.jp

「氏名と所属」を記入の上、電子メールでお申し込み下さい

| | | | | |
|--------|-----------|-------------------|--------|-----|
| | | | 小瀬通 | |
| | ◎フォーラス | | | |
| クラックス◎ | ◎フジサキ | ◎ダイエー | 吉野通 | 仙台駅 |
| マクナルド◎ | ◎サンモール | ◎二番丁通 | イービーズ◎ | |
| COCO◎ | | | 南町通 | |
| | ◎Office24 | | | |
| | | 東北工業大学 一番町ロービー | | |
| | | ◎SS39 | | |